

2025zoom 技術部会

2025. 11. 7 (金)

全国勤労者スキー協議会 技術部

【技術部会メンバー】

荻原副会長、岡田技術教育局長、野瀬全国技術部長、
渡邊・五十嵐・藤井・宮腰（北海道）、小川（青森）、畠山（岩手）、渡辺（福島）、森（栃木）、
千木良（群馬）、横田（新潟）、関根（埼玉）、本田（千葉）、・横川（東京）、吉越（神奈川）、
丹羽・加藤（静岡）、永野（岐阜）、土屋（愛知）、池田（滋賀）、藤岡（京都）、富田（大阪）、
村原（兵庫）、辻本（和歌山）

2025 シーズンテーマ

「真下への横滑り左右連続から谷回りターン技術への展開」

1. はじめに

今期、新たなメンバーでの初めの技術部会となる。今期の全国技術部長として前期に引き続き野瀬全国技術部長が再任された。

2. アンケートについて（岡田局長）

(ア) 7 年たって教程がどのように活用されているか、浸透しているかといった視点で実施した。

(イ) 約 3 割の指導員から回答。都道府県レベルでは新潟を除く全てから。（新潟は後日提出する）

(ウ) 一般会員や指導員にとって技術理解を深めるのに役立っていると評価されている。

- ① 体系的に整理されていること。
- ② 共通の指導方針で教えられること。
- ③ スキーの楽しさを広げる助けにもなっていること。

(エ) とはいえ、理論書として難しいところもあるので、用語解説を増やしたり、写真を差し替えたりなど理解を深めるための工夫も必要との意見も多数ある。

(オ) その中でも特に、足裏の切り替えや真下への横滑りの表現に課題を抱えていることや、ベーシックパラレルターンについて教程技術の中で大切な種目という認識はされているのに理解が足りていないことから、より丁寧に分かりやすく動画や写真を多用した説明を求められていることが分かった。

3. 各都道府県より

(ア) 滋賀池田：用語解説の要求など出ています。

(イ) 兵庫村原：高齢化が進んでいるので、筋力の弱い子供、シニア向けの内容が欲しい。

- (ウ) 和歌山辻本：改訂していただけるなら写真の撮り直しを。ベーシックパラレルターン、足裏切り替えで苦勞。解説を。
- (エ) 京都藤岡：YouTube で紹介している内容で補足していけるといいのでは。高齢化が進んで教室だけでスキーが終わることも。そうすると教程の内容だけで終わってしまう。(→滑る日数、時間が少ない方にも楽しめる教程にしていきたい。(野瀬))
- (オ) 愛知土屋：改訂したほうが良い派・・・言葉が難しい。しなくてよい派・・・道筋がしっかりしているのでこのままで。用語の解説が入ると逆に混乱する可能性という意見も。
- (カ) 岐阜永野：絶賛している方、そうでない方さまざま。一般スキーヤーへ伝える際に上手くいかないことも。
- (キ) 三重角谷：アンケートをとれなかったので個人の意見ですが、少し内容が細分化されすぎているかなと感じている。
- (ク) 静岡加藤：改訂の必要はないが、加筆してくれる分には歓迎。股関節の内旋・外旋など新たな用語を的確に載せてほしいところ。
- (ケ) 神奈川吉越：教え方を載せてほしいという意見が出ているが、理論書と指導書、位置づけ次第か。(→今後は良いところ取りも検討する。野瀬)
- (コ) 東京横川デモ：教程の内容は修正ではなく加筆を。表現としてはステップ 1、2、3 といった組み立てにすると分かり易くなるという意見。
- (サ) 埼玉関根：系統だっていて素晴らしいという意見。初歩のパラレルのプルークボーゲン？は残してほしい。理解が難しい点があるので、加筆はお願いしたい。
- (シ) 千葉本田：論理的に納得できる内容である点で一致。スキー協外のスキーヤーからも評価。制動面で評価高い。「前に出る」が伝達で苦勞している。「谷脚に乗る」も同様。
- (ス) 栃木森：教程持っているけれど読んでないが多数。数少ない 3 名から収集。加筆については、別冊で「指南書」を出したらどうかという意見。
- (セ) 群馬千木良：苦勞しているのは初歩パラ I → II のステップ。正しく荷重すれば向心力をもらえるという点が伝わりにくい。
- (ソ) 新潟横田：アンケート取れず。すいません。
- (タ) 福島渡辺：足裏切り替えは難しいが特徴的でよい。
- (チ) 岩手畠山：納得して滑ることができる点、段階的に指導できる点に評価。ベーシックパラレルターンでの低速時と高速時の開き出しの違いが難しい。ベーシックパラレルターンはパラレルへの過程で本当に必要なのか？という疑問アリ。高齢者にはつらい。
- (ツ) 青森小川：次のステップへ進む目安、何パーセントできたら進んでよいか、何ができればよいのか、判断が難しいという意見。スピードを追求しないスキーはつま

らないから教程は合わない、という特異な意見も。

- (テ) 北海道五十嵐：北海道は GoogleForm を使ってアンケートを収集。クラブ単位での回答も。しっかり教程を読んでいる方からの回答が多かった印象。「真下への横滑り左右連続をどのようにターンにつなげていくか」を具体的に加筆してほしいという意見。
- (ト) 北海道渡邊：変える必要は無いという意見は多い。が、それぞれの滑りについての細かな説明が紹介されているが、それらを教程に載せてくれるとよい。
- (ナ) 北海道藤井デモ：難しい内容ではあるが、それを自分のものにしていけば滑りも変わっていくと思っている。
- (ニ) 大阪富田：アンケートの回収率は低かったが、用語の追加をしてほしいなど、改訂の要求がでていました。

4. アンケートまとめ（野瀬）

- (ア) 全面改訂を望む声は多くないが一部改定を求める声が比較的多く寄せられた。
- (イ) ベーシックパラレルターン、真下への横滑り左右連続、足裏切り替えの詳細な解説を載せてほしい。
- (ウ) 角付け、外脚荷重、ポジショニング、回旋、タイミング、シーズンテーマに関する内容の追記が必要と感じた。
- (エ) 写真についても更新する必要がある。デモの活躍が欠かせない。
- (オ) 今シーズンはぜひこれらの議論を深めていきたい。

5. 北海道、志賀のデモンストレーター選考会・STC について

- (ア) 技術部員は原則参加し、自身の技量を確認する場にしてほしい。
- (イ) 志賀会場は一ノ瀬へ変更となります。

6. 指導員規定細則の変更について

今年の4月に細則を一部改訂した。内容は、指導員検定における教程技術を初級、中級、上級全てにおいて種目を統一した。

- ① 真下への横滑り左右連続
- ② 初歩のパラレルターンⅡ
- ③ ベーシックパラレルターン
- ④ 洗練のパラレルターンⅠ

初級では「初歩のパラレルターンⅡ」、中級では「洗練のパラレルターンⅡ」、上級では「洗練のパラレルターンⅢ」と違う種目になっていた。北海道と長野で行っているデモ選の結果から洗練のパラレルターンⅠの点数が低いのは足裏切り替え操作が出来ていないことが主な理由。これは「初歩のパラレルターンⅡ」で学んだターン後半の足場（適切な角付けと荷重）が確保されていないことと、谷足の前へ出る操作が不足しているためである。「初歩のパラレルターンⅡ」を中級や上級指導員検定の種目として取り入れ、受ける指導員の種別による種目の違いを無くし全て共通の種目とした。

7. 横川デモから一言。

ミーティングに出て、皆さんのお話を聞けてとても勉強になった。今シーズンから中央研修会の講師に選ばれ緊張しているが頑張ります。中級指導員を受験し、さらにスキー技術を高めていきたい。

8. その他

(ア) 岡田：アンケートについて、もっと説明を増やしてほしい、詳しく解説してほしい、という意見が大勢だったが、技術部員としても「今の教程に加筆するという」の方向性で良いか？

→吉越：理論面を追記ということなら賛成です。

→小川：教程書はそれでよいと思うが、指導員向けの指導要領などあれば。

→野瀬：指導書を入れていくとボリュームが増してしまい、最も伝えたいところが薄まってしまうこともあるので、どの程度載せるかなど今後の課題。

(イ) 吉越：写真撮影はデモの活躍の場として、デモだけのトレーニング機会などを作り、その中で実施していくことも検討を。

→岡田：現教程の売り上げ時の黒字分が新教程会計として現時点で 86 万円ほどありこのお金の使い道は「教程を正しく普及するために使うこと」が全国理事会で承認されているので、このお金を使って進めていきたいと考えています。

9. 最後に（荻原副会長）

次の教程には、今より丁寧な説明が求められている。教程改訂の議論をさらに深掘し、今度のシーズンで何ができるか、デモをモデルに写真や動画が撮れないかなど、具体化してほしい。